

茨城大学学報

第285号

平成21年6月～平成21年7月



オープンキャンパスの様子

INDEX

- ◆ A E Dによる救急救命で消防署長から感謝状
- ◆ 産学官連携イノベーション創成機構開所を祝う
- ◆ 茨城大学名誉教授称号授与式
- ◆ 茨城大学役員と茨城大学同窓会連合会との懇談会（第3回）を開催
- ◆ 茨城大学と茨城県稲敷郡阿見町との連携協定に関する定期協議会を開催
- ◆ 大学教育センターでの推奨授業の表彰式
- ◆ 講演会「茨城の富士山信仰ー永井路子の家伝書から」を開催
- ◆ オープンキャンパスに5615名の参加
- ◆ ボゴール農科大学と大学間学術交流協定を締結

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ AEDによる救急救命で消防署長から感謝状

茨城大学工学部職員3名が、AEDによる救急救命活動で6月11日、日立市消防署長から感謝状を授与されました。3月11日に男子職員が事務室内で突然倒れ、心肺停止状態になりその場にいた職員が消防署等への通報、救急車の到着するまでの間、心肺蘇生やAEDによる人命救助措置を迅速に行いました。なお、この救助活動が模範となり、5月に実施された消防署主催の救命講習会には、教職員、学生の参加が著しく増加し救命活動への関心の高まりと意識を向上する大きなきっかけとなりました。



上段：(左より) 三橋典代、藤田美穂子、後藤裕之工学部職員
下段：(左) 小室廣日立市消防署長、(右) 田中登工学部事務長

◆ 産学官連携イノベーション創成機構開所を祝う

茨城大学では、平成21年5月1日付けで共同研究開発センターと大学院理工学研究科VBL（ベンチャービジネスラボラトリ）を統合し、「産学官連携イノベーション創成機構」を設置しました。6月16日に日立キャンパスにおいて文部科学省、経済産業省、茨城県、日立市、JST、企業等の関係者等約150名により開所式典を開催しました。

池田学長、松田機構長（副学長）、山本総務財務担当理事（事務局長）等による新機構の看板除幕式を行い開所を披露しました。新機構は学術担当の松田副学長を機構長とし、塩幡元共同研究開発センター長を副機構長としました。機構内に共同研究推進部門、知的財産部門、ベンチャービジネス部門、インキュベーション部門、人材育成部門の5部門を設け、それぞれの部門に部門長を置き、客員教授、産学官連携コーディネータ等を配置し統合前の体制をより機能的に推進できる体制としました。事務部門も研究支援室と工学部事務部門を再編し、新たな体制を構築、外部企業等によりわかりやすい体制を整えました。

当日は、文部科学省研究振興局の田口康研究環境・産業連携課長が「産学官連携における現状と課題」、経済産業省関東経済産業局の吉澤雅隆地域経済部長が「産学官連携に対する期待」と題した講演がありました。

今後、茨城大学産学官連携イノベーション創成機構では各部門の連携を図り、更なる外部資金の獲得、大学発ベンチャーの育成支援、人材育成を行う方針です。



新機構看板の除幕を行う池田学長



開設記念式典であいさつする松田機構長

◆ 茨城大学名誉教授称号授与式

平成21年6月18日（木）開催の教育研究評議会において下記の方が名誉教授として選考され、その称号授与式が平成21年7月3日（金）、学長ほか関係者列席のもと、事務局第二会議室において行われました。

記

元職名	氏名	元職名	氏名
人文学部 教授	おおくぼ のぶこ 大久保 伸子	理学部 教授	ふじい ゆうき 藤井 有起
人文学部 教授	まつむら なおみち 松村 直道	工学部 教授	いちむら みのる 市村 稔
教育学部 教授	おおた しげあき 太田 茂秋	工学部 教授	ささき ゆたか 佐々木 豊
教育学部 教授	そごう まさのり 十河 雅典	工学部 教授	ふくざわ きみお 福澤 公夫
教育学部 教授	よしだ ひろこ 吉田 紘子	農学部 教授	くぼた まさつぐ 久保田 正亜
理学部 教授	おおはし こうさぶろう 大橋 弘三郎	農学部 教授	なかそね ひでお 中曽根 英雄



称号記を授与された名誉教授の方々

茨城大学役員と茨城大学同窓会連合会との懇談会（第3回）を開催

平成21年6月22日（月）12:00から、茨城大学事務局会議室において、第3回茨城大学役員と茨城大学同窓会連合会との懇談会を開催しました。

この懇談会は、茨城大学同窓会連合会の事業の1つである「茨城大学との連携及び協力」の一環として、毎年1回開催しているものです。

大学役員等関係者13名及び同窓会連合会関係者11名の出席の下、池田学長から5月30日（土）に開催された「茨城大学創立60周年記念式典及び地域貢献シンポジウム」及び「大学憲章の制定」並びに「直近の新聞報道等に基づく大学の活動状況等」についての近況報告があり、引き続き、各同窓会会長から各同窓会の近況報告や要望等の意見が提示されるなど、昼食をとりながら和やかに懇談が行われました。



懇談会終了後の記念撮影

日 時：平成21年6月22日（月）12:00～13:20

場 所：事務局第3会議室

出席者：

茨城大学（13名）		茨城大学同窓会連合会（11名）	
学 長	池田 幸雄	会 長	堀川 賢壽（教育学部同窓会会長）
理事（副学長）	松田 智明	副 会 長	野口 芳男（文理・人文学部同窓会会長）
”	白石 昌武	”	小林英壽郎（鈴木昌友会長代理： 理学部同窓会副会長）
理事（総務・財務）	山本 恵一	”	寺門 龍一（多賀工業会会長）
理事（事業）	宇野 佑一	”	赤塚 尹巳（農学部同窓会会長）
監 事	矢口 一美	代表幹事	佐藤 瑛一（教育学部同窓会幹事長）
総務部長	鈴木 武	幹 事	佐藤 和夫（文理・人文学部同窓会幹事）
学術企画部長	貝田 辰雄	”	金子 一夫（教育学部同窓会幹事長）
総務課長	小野 智	”	佐久間 隆（理学部同窓会常任理事）
研究協力・地域連携課長	皆川 善廣	”	小林 正典（多賀工業会理事長）
総務課長補佐	桑澤 芳春	”	中村 豊（農学部同窓会幹事長）
総務係長	向後 光典		
総務係員	村松 将人		

懇談会進行内容

- 12 : 00 懇談会開会
- 12 : 05 ~ 自己紹介
- 12 : 10 ~ 昼食
- 12 : 30 ~ 懇談会
池田学長挨拶及び大学運営に係る
現状報告
- 12 : 45 意見交換
各同窓会会長からの要望/意見等
大学役員からの報告/意見等
同窓会連合会幹事会からの要望/意見等
- 13 : 20 閉会



挨拶する堀川会長



懇談会の様子

◆ 茨城大学と茨城県稲敷郡阿見町との連携協定に関する定期協議会を開催

今年で4回目となる阿見町との定期協議会（トップ会談）を平成21年6月30日（火）午後2時から本学農学部において開催しました。

阿見町側からは、川田町長をはじめ10名が出席し、茨城大学からは池田学長、松田理事（学術担当副学長）等10名の出席により開始されました。

はじめに池田学長から、「本学は地域振興と社会貢献を重要な柱として位置づけており、各キャンパスを中心に県内全域を対象に活発な連携活動を展開している。阿見町とは今までの信頼関係を基礎として、今後さらに連携関係を強めていきたい」との挨拶がありました。

続いて川田阿見町長からは、「阿見町に農学部が立地していることから種々のご協力をいただいていた。また、平成18年の連携協定締結後は農学の分野以外でも協力をいただいている。今後とも地域資源の有効利用の観点からも、茨城大学との連携はますます重要になってくる」との挨拶がありました。

その後、平成20年度連携事業についての成果報告及び平成21年度の取組事業について、詳細な事業紹介が行われました。

協議会は日頃からの緊密な関係もあり、和やかな雰囲気の中で相互の活発な意見交換が行われ有意義な協議会となりました。

また、協議会終了後には参加者全員で耕作放棄地の有効活用とバイオエネルギー生産で話題を提供している農学部の新田教員の案内説明により、スウィートソルガム圃場及び搾汁施設の見学を行い散会となりました。



活発な意見交換がされた



搾汁施設での実演風景

◆ 大学教育センターで推奨授業の表彰式

大学教育研究センターでは、教育上の多大な努力や優秀な教育技術等が認められる教養科目を推奨授業として選考し、担当した教員を学長が表彰することになっています。

平成 20 年度の全ての教養科目から 3 件の推薦があり、推薦書、受講者の成績、学生による授業評価、その他の根拠資料に基づいて審査された結果、この 3 科目は推奨授業として選考されました。そして 6 月 4 日にそれぞれの担当教員に対して学長表彰式が行われました。表彰を受けた教員には表彰状と特別教育研究費が配分されます。

推奨授業科目は以下の通りです。一つめは「化学と環境と生活」で、担当は教育学部の松川覚先生です。文系向けの化学の授業で大人数からなるクラスですが、演示教材を用いるなど、理解を深めるための様々な工夫をされることで、学生の高い満足度を得られました。二つめは「総合英語」で専門の基礎となる教養の英語科目です。担当は教育学部の竝木崇康先生です。単に正確な読みを目指した講読というにとどまらず、著者の考え方に対して批判的に考えさせることで、学生の興味を引くことに成功しています。最後は工学部の原田隆郎先生の「情報関連科目」です。文系学生の理解を上げるために、レポート、小テストを頻繁に実施してその結果をフィードバックし、課題を設定した「スライド審査会」を学生達に行わせ相互の評価を行うなど、学生がコンピューターを理解し活用できるレベルにするための様々な工夫をされていました。これらの授業には自由参観日も設定され、広く公開されました。



(左より) 原田隆郎工学部准教授、竝木崇康教育学部教授、松川覚教育学部准教授、池田幸雄学長、森野浩大学教育センター長、佐藤和夫副センター長、勝本真副センター長

講演会「茨城の富士山信仰－永井路子の家伝書から」を開催

茨城大学図書館（松田智明館長）では、平成21年4月、歴史小説家、永井路子氏の本家（茨城県古河市）に伝わる古文書の寄贈を受けて、資料を整理、修復し、7月10日（金）より27日（月）まで、1階展示コーナーにおいて公開しました。

7月12日（日）には展示のイベントとして、永井路子氏の講演会を開催。池田幸雄学長の挨拶の後、永井氏が講演し、その中で「神棚の奥にあった古文書を発見し、先祖が江戸時代に広がった富士講や不二道ふじこう ふじどうに関わりがあったことがわかりました」「幼い頃、口ずさんでいた言葉の内容は、不二道の教えであったことを知りました」と資料発見時の様子や幼い頃の思い出を語りました。また、本学が寄贈を受けてから早い時期に資料を調査し、展示を開催したことについて、感謝の言葉を述べられました。

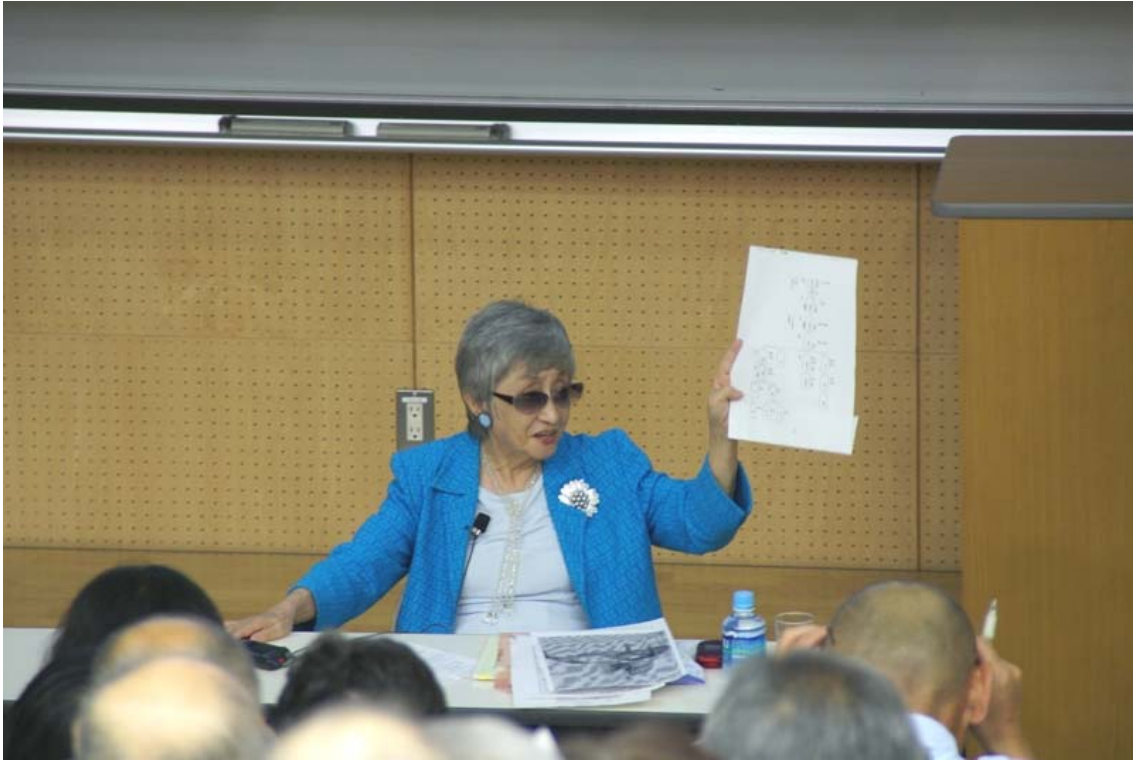
続いて、小野寺淳教育学部教授（図書館副館長）から江戸時代に富士講や不二道が庶民に広がった社会的背景について、梅澤ふみ子恵泉女学園大学教授から、その教えや不二道の社会奉仕活動についての講演がありました。

「不二道という地域の歴史の新しい一面について拝聴できました」「地域のことをもっと知りたいと思います」という地域の方や、「地域の古文書を読んで歴史を学んでいます」という学生などおよそ200名の来場者がありました。

本学が所蔵する貴重な資料と大学の学術研究の公開が、今回の講演会により一層、地域の皆様の期待に応えるものとなりました。



講演に先立ち挨拶をする池田幸雄茨城大学長



講演をする永井路子氏



図書館展示「茨城の富士山信仰—永井路子の家伝書から」の様子

◆ オープンキャンパスに5615名の参加

茨城大学では、去る7月25日(土)に第24回オープンキャンパスを開催しました。雨も心配されたが午後からは晴れ間が広がり、気温も上がる中、早朝から高校生や保護者達が続々と来場しました。ほぼ昨年度と同じ5615名の参加がありました。

正門前では池田幸雄学長はじめ山本恵一事務局長、荒川智入学センター長ら教職員が、笑顔で大勢の高校生らを出迎えました。参加者たちは、水戸キャンパスと一昨年から設けられた茨城県武道館との二会場を往復し、熱心に学部紹介などの説明を聞いたり、公開授業等を受けていました。

会場内の各種相談や情報提供コーナー、過去問閲覧・配布コーナーはどこも盛況で、特に茨大生による相談コーナーやキャンパスツアーなど、学生の積極的な参加によるものが好評で、オープンキャンパスを終日盛り上げました。



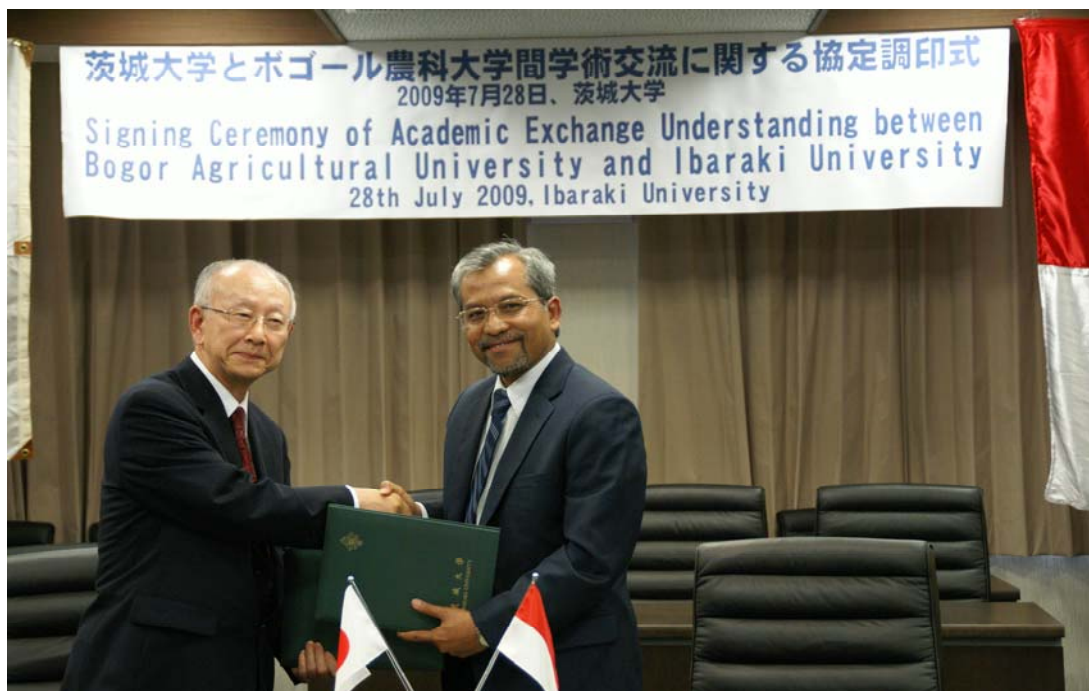
写真：参加者を笑顔で迎える池田幸雄学長（中央）、山本恵一事務局長（右）、荒川智入学センター長（左）

◆ ボゴール農科大学と大学間学術交流協定を締結

茨城大学は、7月28日インドネシア共和国のボゴール農科大学と大学間における学術交流に関する協定を締結しました。協定には、①教職員、研究者及び学生の交流②教育及び研究に関する情報・資料の交換③会議、セミナー、シンポジウムでの協力と相互参加の実施項目が盛り込まれ、池田幸雄茨城大学長とヘリー・シュハルリヤント ボゴール農科大学長がサインを取り交わしました。

平成20年5月、本学農学部との学部間学術交流協定を締結して以来、大学院 GP 授業科目「熱帯農業フィールド実習」をボゴール農科大学で実施、共同研究「気候変動適応土壌システムの開発及び持続的な熱帯農業に関する教育研究」等教育研究の交流実績が認められ、大学間学術交流協定へ格上げされました。

大学間学術交流協定の締結により、農学関係以外に、数理学、経済学、人間生態学等の学部・学科を有する大学であることから、本学全体の学部・研究科と学術交流・学生交流の更なる発展が期待されます。



調印式の様子（左が池田茨城大学長）